

テーマ：いわれのない非難によって苦しむ時、信仰者はどのように祈ることができるのか

※マタイ 5:11-12

「わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。」

○ゆえもなく憎まれるとき：ダビデの捧げた三つの祈り

1. 神様の内に_____祈り (1-10)

※出エジプト記 23:6

「あなたの貧しい兄弟が訴えられた場合、裁判を曲げてはならない。」

●“主の使い”に関して：

※創世記 16:7-8, 13

「主の使いは、荒野の泉のほとり、シュルへの道にある泉のほとりで、彼女を見つけ、「サライの女奴隷ハガル。あなたはどこから来て、どこへ行くのか」と尋ねた。彼女は答えた。「私の女主人サライのところから逃げているところです。…そこで、彼女は自分に語りかけられた主の名を「あなたはエル・ロイ」と呼んだ。」

※創世記 22:15-17

「それから主の使いは、再び天からアブラハムを呼んで、仰せられた。「これは主の御告げである。わたしは自分にかけて誓う。あなたが、このことをなし、あなたの子、あなたのひとり子を惜しまなかったから、わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。…」

※ゼカリヤ書 1:12-13

「主の使いは答えて言った。「万軍の主よ。いつまで、あなたはエルサレムとユダの町々に、あわれみを施されないのですか。あなたがのろって、七十年になります。」すると主は、私と話していた御使いに、良いことば、慰めのことばで答えられた。」

※詩篇 9:8-9

「主は義によって世界をさばき、公正をもって国民にさばきを行われる。主はしいたげられた者のとりで、苦しみのときのとりで。」

2. 神様の内に_____祈り(11-18)

※ローマ 12:19

「愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」」

「私たち信仰者が、不当な扱いを受け、罵倒され、権利を侵害されると、不当な扱いを受けたとして、仕返しをしたいという欲求に駆られます。しかし、私たちは仕返しをしたいというその欲求に負けてはいけません。むしろ、敵の運命を神の手に委ね、どんな不正も終わりの日に報いられると理解することです。」(トーマス・シュライナー)

※1 ペテロ 2:23-24

「のしられても、のしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」

3. 神様の内に_____祈り(19-28)

○結論：